

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第4回）

日時：令和2年8月4日（火）9時～10時

参加者：教員等協議会：飯本（理事）、安岡（理事）

若手研：迫田（理事）、廣田（参与）、廣内、嶋田、辻、三輪、片岡

概要：

- 7/30の若手研打ち合わせ報告（若手研）
 - SNSの利用
 - ◇ どのように活用するのか、目的を明確にする
 - ◇ ツイッター内容案
 - 研究室紹介、学生生活（学友会）（社会人は難しいか）
 - 放射線基礎知識、偉人、放射線Q&A、書籍紹介（若手研&学友会）
 - 保物キャラを作るか（現在募集中）
 - ◇ 教員からも学生に積極的に声かけをしてほしい。
 - ◇ FBの利用
 - イベントの写真付き報告を乗せてツイッターの連動
 - 他学会との連携の枠組み
 - ◇ 正学生会費メリットだけで入会するか？ 若手準会員の枠組みは有効か
 - 就職一年目の社会人も学生価格で入会できる制度はどうか？（お試し期間制度） → 社会人で入会する人は必要があるから入るので、それは不要では。
 - ◇ 関連分野若手リストを整備。それを活用してイベントなどを行う。
- 7/30の若手研打ち合わせ報告に対するコメント（教員）
 - 学生の準会員へ誘導は重要。教員から声をかける。まずは学会の中で活動基盤を整備してから外への発信をした方が良いのではないか。
 - ツイッター等での発信につき、所属組織の理解は得られそうか
 - ◇ 研究内容は呟けないが、放射線暮らしのQ&Aや、基礎知識であれば特に問題ない。
 - ◇ 肩書きは保物学会員。個人研究者として発信？ →キャラができればキャラから発信。個人としては表に立たないようにする。
 - ◇ 炎上した場合の対策はある程度議論しておく必要がある。
 - ◇ 放射線関連の緊急事態があった場合の対応も協議しておく必要がある。
 - 学会コミュニケーション委員会との連携が必要。役割分担をしておく必

要がある。

- 学会声明などを若手研ツイッターアカウントで誘導するなどできるか。
- Zoom は学会で契約予定
- 若手準会員（案）の新規設置案について
 - ◇ 若手研の中に常時参加者として設置
 - ◇ 専門研究会の常時参加者として登録可能。企画行事は OK、研究発表会は不可、NL は不可、などはどうか
 - ◇ 保物若手研 HP にある規則（第 2 条）の改正が必要か
 - 実施にあたっては理事会と要調整
- 若手研の位置付けについて
 - 名簿の整備が必要
 - かつては企画委員会管轄の組織であったが、法人化後は理事会管轄に
 - 安全管理学会の研究大会で、若手研としての活動報告を行い、仲間を募る
 - 安全管理学会内にも、若手研と一緒に活動してくれそうなメンバーがいれば、アンブレラ事業の会合等でさらに広く声かけすることも可能
- 日本放射線安全管理学会と日本保健物理学会の歴史的経緯
 - 保物学会は米国 Health Physics 日本支部から。原子力エネルギー開発が活発だった頃の経緯から、保物学会は大規模施設を中心とした学会として機能
 - 大学を中心とした小規模な施設での安全管理を、実学的視点で学問として位置付けることを目的に、安全管理学会が設立される
 - 医療などがより重要な分野になり、大型実験研究に並ぶシミュレーション研究なども発達。両学会のスコープが重複する状況に
 - 学会誌や授賞の統合などについても議論がなされてきたが、現時点では、企画シンポジウムや研究発表会の相互協力や合同等の連携に
- 次回予定：9 月 9 日午前 9:00~9:58

以上